



ジッダ日本人学校だより Jeddah Japanese International School News

【教育目標】

心豊かに学び、たくましいジッダっ子の育成
～かしこく・やさしく・たくましく～
令和5年(2023年) 7月2日 NO. 7

TEL : 664-3437 FAX : 664-2963

HP <http://jjs-japan.com>

E-mail jjssa@jjs-japan.com

校長 新谷 太郎

児童生徒会の考えた水泳大会のスローガン

あおぞら ^{した} ^{ほんき}
青空の下で、本気・チャレンジ・おうえん!!

日本の学校では実施することが少なくなった水泳大会ですが、ジッダ日本人学校では前期の体育の授業が水泳を中心に行っていることもあり、水泳大会は夏の恒例行事です。

2023年度 水泳大会

実施日 7月7日(金)

時程

8:15 ムラブスタンコンパウンド6番プール集合

8:30 開会式

競技

11:15 閉会式

11:50 解散



主な競技

平泳ぎ(20m、40m)

自由形(20m、40m)

親子でおんぶリレー

じゃんけん列車

うきわレース

紅白リレー

宝さがし

本校では、水泳大会に3つの目的を設定し取り組んでいます。

1 児童生徒の水泳学習の成果を発表すると共に、さらなる練習への意欲向上の一助とする。

→ 4月から週3回水泳の授業を行ってきました。4月のうちは泳ぐことに慣れていない児童は浅いプールで水中じゃんけん、水底の基石を拾いなどから始め、そしてバタ足、今では深いプールでうきわを使いながら自分で泳ぐことができるようになりました。上級生は、昨年までの泳ぎからフォームがきれいになり、タイムもどんどん短くなっています。今は水泳大会で自己ベストができるように練習に励んでいます。

2 自分の役割を果たすことで成就感を味わうとともに、協力して一つの行事をつくり上げるよろこびを体感する。

→ 水泳大会は、学校行事の一つであり、児童全員に役割があり、係分担から責任感を育むことや協力してつくり上げること、発表力の向上も目的にしています。具体的には次のように取り組んでいます。

1年生:選手宣誓 3人で分担して行います。「せんせい! わたたち せんしゅいちどは
じこベストをめざして…」日本語と英語での宣誓になります。

2年生:ラジオ体操 2人で参加者全員をリードします。授業の成果を発表します。

4年生:総司会 全校集会などの司会の経験を活かして、今回は開会式、閉会式の進行、児童代表のあいさつなどに取り組みます。緊張しますが、水泳大会を盛り上げてくれるはずですよ。



JEDDAH_JAPANESE_SCHOOL

水泳のようすは学校のインスタでも紹介します。

3 保護者や日本人会の人たちと共に楽しみ、交流を深める。

→ 日本人学校は、日本人会が設置した私立学校のため、教育活動の他に、在留邦人のコミュニティセンターの性格も持ち合わせています。そのため、水泳大会は、本校の児童生徒以外の日本人会の会員の方にも参加していただいています。特に、ジッダは在留する邦人が少なく、街中に娯楽も少なく、日本人と一緒に楽しむ機会は大切と考えています。今年は、校内の参加児童が7名と少ないため、参加していただける方で学校行事を盛り上げていただきたいと思います。

目標を立てて 考えて練習しています

水泳大会は、水泳技能の向上だけが目的でないことを説明しました。それでも、水泳大会の中心は水泳です。水泳は得意な児童、不得意な児童もいます。児童それぞれが水泳に関する自分の目標を立てて、その目標に向かってどうやって自分が取り組んでいくかを学年ごとに考えさせています。例えば

【目標】 20mおよぐ 【そのために】 バタ足を強くする。

【目標】 クロール 40m泳ぐ 【そのために】 学校でも 家でも 練習する。

この二人のように、【目標】と【そのために】をセットで考えるようにしています。

目標を闇雲に立てるのではなく、自分の状況、記録を考えて、目標を立てています。そして、**それを達成するためにどうすればいいか**を児童の学年に合わせて考えさせ、実際にプールで挑戦しています。

水泳に限らず、目標達成に向けてまたは課題解決に向けてどうするのか、状況を分析して自分は何をしたらいいのかを考え、実際に取り組んでみる。小学生、中学生、大人と考える深さは違いますが、アプローチは同じではないでしょうか。今回の目標達成への取組を別のことにも活かし、このような考え方を将来身に付けていってほしいと思います。

お知らせ 安全確保に向けて

総領事館からのメールで、6月28日23時過ぎ米国総領事館の治安部隊と銃器を所持した人物1名と銃撃戦になり、襲撃犯1名は射殺され、米国総領事館の職員も負傷し、その後死亡したと、伝えています。詳しいことはまだ発表されていませんが、安全対策を見直しました。

安全確保は大きな課題です。そのためにも、領事館の大塚領事と危機管理について協議を進めてきました。今回の事件のように、外からの侵入者を敷地外で対応することが重要です。そのために、以下の2点についてご協力お願いします。

- ①登下校時、路上での車の乗り降りを迅速にお願いします。
- ②登下校時にすぐにドア（黒門）を閉めることができるようにします。送迎時は警備員2名、教員2名で対応します。もし担任等に連絡があるときは、ドアの内側敷地内での連絡をお願いします。